

1. 全体概要

川上川下業者間で、情報共有できるSaaSシステム「ウッドナビ」の開発と同システムの運用体制を整備。木造案件の情報や、在庫数・消費数といった需要情報の早期共有、クラウド上での受発注等を目的とし、製材業者、プレカット業者、工務店の3業態で取り組んだ。

※本年度の構築範囲



2. 取組の背景、地域の課題

- 通常の木造建築プロセスに於いて、設計情報が川上川中業者へ早期共有されないことにより、不適切な部材利用や材料手配の無駄が生じていることが課題。
- 業者間での連携不足により、情報が分断されていることが、発注ミスによる過剰在庫や急な出庫による在庫不足と価格乱高下の原因となっている。これらの問題は、連携が容易と思われる狭域の業者間でも顕著であり、課題の共通認識とICT環境の整備が必要不可欠である。



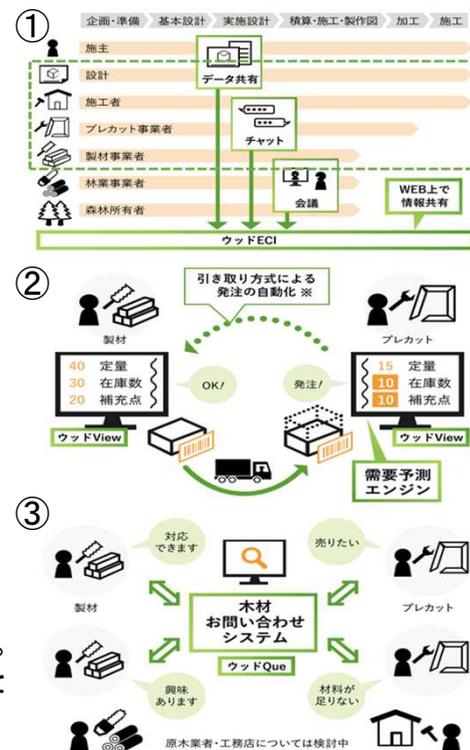
3. 取組の概要、成果

【概要】

- 「ウッドナビ」に3つの機能を搭載。
- ①案件情報の早期共有「ウッドECI」
- ②川中業者の受発注と需要予測「ウッドView」
- ③過不足材情報のマッチング「ウッドQue」を装備し、木材安定供給を実現する為のサプライチェーン構築を目指した。また、構成員内で当取組の目的意識の共有と、運用体制を整備した。

【成果】

- 岐阜県の杉・桧材の供給安定化から着手し、県産材仕様の施工を実施。川上業者が早期関与することで、事前に準備し、無理のない納期で供給出来たことにより、システムの有用性を実証。
- 過不足の問い合わせをWeb上で行うことで、効率化を実現。



4. 今後の取組、課題

○体制整備

現状参画者が岐阜、山梨、群馬、神奈川、東京と点在していることと、森林・原木事業者を呼び込むことが課題。今後は各地域で川上～川下事業者の参画者を募り、「ウッドナビ」を活用した複数の域内サプライチェーン構築を目指す。また、「ウッドナビ」のコンセプトに共感した群馬県と当協議会の代表構成員が建築物木材利用促進協定を締結(令和5年8月付)。県内流通各社での利用拡大を検討中。

○システム改修

登録可能な業種、データ項目等が限定的な点と、ユーザビリティの改善が課題。システムを改修し、ユーザー拡大を目指す。